

## 2007年度 東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室シンポジウム

### 「太田道灌と城館の戦国時代」開催趣旨

NHK大河ドラマの影響であろうか、2007年度は戦国時代ブームであった。加えて、太田道灌が江戸城を築いて550年という年でもあった。そして、時を一にして、深大寺城（調布市）と埼玉県比企郡の戦国城館が国指定史跡となった。このような戦国時代を考えるのに相応しい年を記念して、太田道灌と江戸城にかかわるシンポジウムを開催することができたことは実にタイムリーであったと思う。

今回の都市歴史研究室シンポジウムは、葛飾区郷土と天文の博物館および埼玉県立嵐山史跡の博物館で開催されたシンポジウムと連携して行い、その締めくくりの討論の場も兼ねた。このように3館が連携し、議論を引き継ぎつつ行うシンポジウムは初めての試みであろう。成功するかどうかについて、やや不安はあったが、その不安を払うかのように応募は予想を遙かに上回り、議論も内容の濃いものになったと感じる。

シンポジウムのテーマにもあるように、主題は太田道灌が活躍した戦国時代前半の城館とはどのようなものだったか、これが議論の中心だった。一般に戦国時代の城館といえば、城内では八王子城が思い浮かび、全国的には織田信長の安土城や上杉謙信の春日山城などがイメージされる。主として戦国時代最末期の城館である。この点は研究のレベルでも異なることはなく、戦国城館の研究は戦国時代後半の城館が主たる素材となっていた。つまり関西地方では織豊城郭という言葉があるように織田・豊臣時代の城館であり、関東では戦国大名北条氏を中心とした城館が研究され、そのイメージが形成されていた。このような研究史状況には、城館は絶えず作り直されるものであり、現況は戦国時代末の状況を示していると考えられていたことが、大きく影響している。そのため、戦国時代前半の城館とはどのようなものだったかという課題はほとんど議論されることなく、今日に至っていた。

そのようななか、国指定史跡となった埼玉県比企郡の戦国城館群のうち、杉山城（埼玉県嵐山町）の発掘調査事例はとりわけショッキングな内容だった。調査以前、杉山城は戦国大名北条氏のとりわけ典型的な城館と考えられていた。ところが調査の結果、北条氏以前の城館であるとの所見が出された。このことは大きな衝撃として関係者に受け止められた。

他方、城内には本シンポジウムでも扱った石神井城・練馬城（ともに練馬区）、そして深大寺城などの北条氏以前の城館が存在し、着実に調査が重ねられていた。杉山城の事例を単独に扱うのではなく、城内の事例を加えてより研究を深めることができる可能性を秘めていた。ゆえに、当該の城館にかかわる文献資料や発掘調査情報を持ち寄り、戦国時代前半の城館についてのイメージをより豊にするということが与えられた課題となった。東京都域の城館を扱いつつも、東国というより広い視野で、戦国時代前半の城館研究がテーマに成り得たのである。

そしてそのような広範な視野でのテーマ設定であったがゆえに、このテーマがそのまま連携シンポジウムが模索した中心的な課題となりえたのだった。（文責 齋藤慎一）

## シンポジウム「太田道灌と城館の戦国時代」関連事業

シンポジウム「太田道灌と城館の戦国時代」は、葛飾区郷土と天文の博物館および埼玉県立嵐山史跡の博物館で開催されたシンポジウムと連携して行なわれたものである。また、当館においても、関連する特集展示および関連講座を開催した。それらの概要は以下のとおりである。

### 1. 2007年度 東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室 シンポジウム

「太田道灌と城館の戦国時代」

(1)日 時：2008年3月8日(土)

(2)場 所：東京都江戸東京博物館 1階ホール

(3)テーマ：「太田道灌と城館の戦国時代」

(4)構 成：

基調講演

- 峰岸純夫（東京都立大学名誉教授）「戦国時代の関東」

3館連携シンポジウム「最新成果！戦国城館」成果報告

- 谷口榮（葛飾区郷土と天文の博物館）

シンポジウム「葛西城と古河公方足利義氏」要旨

- 浅野晴樹（埼玉県教育委員会）シンポジウム「後北条氏の城－合戦と支配－」要旨

個別報告

- 齋藤慎一（東京都江戸東京博物館）「太田道灌と江戸城」
- 都築恵美子（練馬区教育委員会）「石神井城・練馬城の調査」
- 生田周治（調布市郷土博物館）「深大寺城の調査」

パネルディスカッション

- 司会：齋藤慎一（東京都江戸東京博物館）

### 2. 東京都江戸東京博物館 太田道灌江戸城築城550年 関連事業

(1)特集展示「太田道灌とその時代」2007年9月12日(水)～10月21日(日)

(東京都江戸東京博物館 6階常設展示室)

(2)特集展示「太田道灌とその時代」関連講座

①フォーラム「戦国社会のイメージ」（2007年10月20日(土)）

- 講演 藤木久志（立教大学名誉教授）「戦国社会の実像」
- 講演 小野正敏（国立歴史民俗博物館）「焼物から見る中世の世界」
- 対談 藤木久志+小野正敏（司会 齋藤慎一〈東京都江戸東京博物館〉）

②連続講座「戦国時代の関東を考える」

- 2007年10月26日(金) 佐藤博信(千葉大学)「関東の足利氏」
- 2007年11月16日(金) 落合則子(東京都江戸東京博物館)「万里集九と梅花無尽蔵」
- 2007年11月30日(金) 家永遵嗣(学習院大学)「北条早雲の時代」
- 2007年12月9日(日) 則竹雄一(獨協中学・高校)「北条領の村と町」
- 2008年1月18日(金) 黒田基樹(駒沢大学)「上杉氏の時代」
- 2008年2月1日(金) 山口博(小田原市教育委員会)「戦国大名北条氏康」
- 2008年2月17日(日) 齋藤慎一(東京都江戸東京博物館)「北条氏政・氏直と徳川家康」

3. 葛飾区郷土と天文の博物館 シンポジウム 「葛西城と古河公方足利義氏」

(1)日 時：2007年12月1日(土)・12月2日(日)

(2)場 所：葛飾区郷土と天文の博物館

(3)テーマ：「葛西城と古河公方足利義氏」

(4)構 成：

第一部(2007年12月1日(土))

記念講演

- 佐藤博信(千葉大学)「古河公方足利義氏と東国」

報告

- 長塚孝(馬の博物館)「葛西時代の足利義氏」
- 黒田基樹(駒沢大学)「小田原北条氏と古河公方」
- 平野明夫(國學院大學)「足利義氏の元服」

第二部(2007年12月2日(日))

記念講演

- 小野正敏(国立歴史民俗博物館)「葛西城と戦国考古学」

報告

- 谷口榮(葛飾区郷土と天文の博物館)「小田原北条氏と葛西城」
- 田中信(川越市教育委員会)「武蔵における戦国前期の武士勢力とカワラケ」
- 佐々木健策(小田原市教育委員会)「小田原北条氏のカワラケと漆器」

第三部(2007年12月2日(日))

全体討議

#### 4. 埼玉県立嵐山史跡の博物館 シンポジウム 「後北条氏の城 -合戦と支配-

(1)日 時：2008年1月26日(土)・1月27日(日)

(2)場 所：独立行政法人国立女性教育会館

(3)主 催：博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会

(埼玉県立嵐山史跡の博物館・比企地区各市町村教育委員会)

(4)テーマ：「後北条氏の城 -合戦と支配-

(5)構 成：

第一日 (2008年1月26日(土))

埼玉県指定無形民俗文化財 小鹿野歌舞伎上演「義経千本桜 伏見稻荷鳥居前之場」

●小鹿野歌舞伎保存会

基調講演

●池上裕子 (成蹊大学教授)「戦国大名北条氏と領国支配」

報告

●石川安司 (ときがわ町教育委員会)「石垣を持つ城郭」

第二日 (2008年1月27日(日))

報告

●村上伸二 (嵐山町教育委員会)「発掘調査成果からみた杉山城跡」

●青木文彦 (さいたま市教育委員会)「戦国城下町の成立 - 岩槻・松山・鉢形 -」

●秋元太郎 (群馬県高崎市教育委員会)「戦国城館の遺物」

●中井均 (滋賀県米原市教育委員会)「戦国大名北条氏の城」

問題提起・討論

●司会 浅野晴樹、齋藤慎一、谷口榮

パネリスト 池上裕子、石川安司、村上伸二、青木文彦、秋元太郎、中井均

#### 【注記】

「東京都江戸東京博物館研究報告書第15号」では、「葛飾」「葛西」の「葛」については、行政機関や施設名の場合は、そこで使用されている文字「葛」を用い、他は執筆者の使用する文字「葛」とした。